

学習者の声

◎今回は台湾出身の「劉瑜君」さんにインタビューしました。まずは自己紹介から！

「劉瑜君です。台湾から今年の3月31日に来ましたので、日本での生活はまだ2ヶ月です。今は関西外語専門学校日本語学科ピチピチの一年生です。住まいはJR東部市場前か地下鉄南巽の近くのマンションで一人暮らししています。マンションの下の階には一般の50歳くらいのおじいさんも住んでいます。」

◎日本語を習うきっかけや目標は何ですか？

「日本語を使う仕事がしたくて、5年前に台湾の専門学校で日本語を5年間勉強しました。しかし、その後はまったく勉強しませんでした。日本のドラマが好きです。俳優は堂本剛や松嶋菜々子が好きで、去年は台湾で『元カレ』を見ました。今年目標は日本語検定一級合格することです！」

◎日本と台湾の違いについて、感じた事を教えてください。

「金城武やテレサテンの読み方が違います。書き方もkinkikidsは台

湾では『近畿小子』、モーニング娘は『早安少女組』となり、『東京ラブストーリー』は『東京愛情故事』です。温泉も台湾では露天風呂に水着を着て男女一緒に入ります。日本の温泉のようにたとえ同性でも他の人と一緒に裸では入りません。まだ恥ずかしくて日本の温泉や銭湯にはいけそうにないです。食べ物も、ざるそばには驚きました。台湾では温かいおそばが主流なので冷たいおそばをつゆにつけて食べるのはおそです。お餅も中身が何も入っていないお餅は食べたことがなかったです。他にも日本の中華料理では「焼き餃子」や「中華ポテト」など不思議な食べ物があるそうで、びっくりです。中華ポテトは知らなかつ

たけど、今日先生に「大学イモ」と聞いて、日本のスーパーで見かけるあれとはじめて知りました。」

◎来日から2ヶ月あまりなので、とっても初々しかった劉さん。たった2ヶ月でもさまざまなギャップを感じているみたいでした。おそばの話では「きつねうどん」と「たぬきそば」の説明で、たぬきは台湾では見かけないのか絵を書いて説明してもわからないという感じでした。同じ日本でも東京と大阪で全然違うことも多く、桜餅やスジなどの違いは私も最近知りました。これからもたくさん日本のことを知ってほしいです。

(インタビューー 坂本)

ボランティアリレーエッセイ第14回

「快適な世界」

7班班長 丸山輝裕

早朝からゆっくりとした時間の流れの中で、祈りへ誘うアザーンの響き。これが平和な中東の国々での一日の始まりです。この本来平和な社会がいま揺れ動いています。

ここ数年のテレビで報道されていることといえば、芸能ネタを除けば、中東・テロといった問題が大半を占めるほどになっています。パレスチナやイラクで毎日のように繰り返される自爆テロ。この中で私たち日本人の中にはアラブ=テロリストといった構図が知らず知らずのうちにできあがっているような気がします。でも考えてみてください。私たちはアラブ社会についてほとんど知らないのではないのでしょうか？

私は以前、少しだけアラビア語を学習していましたが、そのきっかけは中東というアジアでも欧州でもないその雰囲気と、たまたま大学の友人でエジプト人がいたことでした。私は普通に彼と知り合いになったので、彼と彼が育ってきた世界を理解しようとしただけで、それがなければ他の人と同じく、無関心からくる偏見でもって、彼を見ていたかもしれません。

日本社会には少なからず、外国人を理解しようとせず、一般的に言われているようなイメージで捉え、決め付けているという雰囲気があるように思います。

しかし実際には、日本に来ている外国人には生活してきた背景があるにせよ、各個人違うものだと思います。いい人もいれば悪い人もいます。十把一絡げにはしたくないなと思います。とはいえ私も欧州人に関してはあまり知識がないのでともすればステレオタイプで見えてしまいがちですが。

私の主宰するコーヒーを扱うNGOは名前を「アラム・ムリーフ」といい、「快適な世界」を意味するアラビア語です。人間が、戦争か平和かというような二者択一ではなく、意識しなくても快適さを感じることができるような世界が人々にとっては一番いい世界ではないかと思いこの名前を付けました。

世界を快適にするにはどうしたらよいのでしょうか？平和を祈るだけでは不十分です。強く願い、自分が何を今するべきかを考えることです。もしかしたらあなたが市岡の日本語学校でやっていることもその1つかも知れません

2学期は9月3日からです
(学習者の人に各担当ボランティアが伝えて下さい。)